



令和7年度 信濃教育会 「学びの創造研究会」研究大会

研究テーマ

深い学びの視点に立った授業改善

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とともに～

Relaxation time

受付	13:00～13:15	【来賓玄関】
開会行事	13:20～13:50	【音楽室】
授業公開	14:05～14:50	
4年堇組	小林 智哉 先生	
	算数「変わり方」	【4年堇組】
5年梅組	後藤 樹 先生	
	体育「走り高跳び」	【体育館】
座談会	15:00～15:40	【音楽室】
ワークショップ	15:45～16:40	【音楽室】
閉会行事	16:45～16:55	【音楽室】



5年梅組

ワークショップ講師・共同研究者 信州大学准教授 佐藤和紀 先生

博士（情報科学）、修士（教育学）
国立大学法人 信州大学 学術研究院 教育学系・准教授
文部科学省 初等中等教育局・視学委員
中央教育審議会 初等中等教育分科会・専門委員

佐藤先生よりメッセージ▶▶▶「個別最適な学び」と「協働的な学び」が前提の授業をデザインするための鍵は、子ども一人ひとりを徹底的にみとることです。ツールや手法から入るのではなく、子どもたちの実態を深く見つめることが大前提です。その先に「この子にはこう支援したい」という欲求が生まれ、教師の見取りを補完するツールとしてICTが生きてきます。「これでいいのか？」と問い、教師同士がモヤモヤを共有する文化をつくることが重要です。



4年堇組

令和7年度 信濃教育会 「学びの創造研究会」研究大会

伊那市立伊那東小学校会場 開催通知

1 期日 令和7年11月6日(木)

2 会場 伊那市立伊那東小学校

3 日程

13:00 13:20 14:05 15:00 15:45 16:45

(1) 受付	(3) 開会行事	(4) 授業公開	(5) 座談会	(6) ワークショップ	(7) 閉会行事
(2) 来賓到着	【音楽室】	【4年堇組教室】 【5年梅組体育館】	【音楽室】	【音楽室】	【音楽室】

(1) 受付 13:00～13:15 【来賓玄関】⇒来賓駐車場利用(または校舎西 JA 砂利駐車場)

(2) 来賓到着 同上 ⇒【校長室】
研究調査委員
信濃教育会 原 文章

(3) 開会行事 13:20～13:50 【音楽室(2F)】
①はじめのことば (教頭 中嶋 亮太)
②主催者挨拶 信濃教育会長 原 文章 様
③研究の説明 (研究主任 北川 裕之 教諭)
④諸連絡 (教頭)
⑤おわりのことば(教頭)

(4) 授業公開

14:05～14:50 【4年堇組教室】 授業学級 4年堇組 授業者 小林 智哉 教諭 教科・単元 算数「ふえるとどうなる?～関係を見つけよう～」	14:05～14:50 【体育館】 授業学級 5年梅組 授業者 後藤 樹 教諭 教科・単元 体育「データで見る私の高跳び成長ストーリー、見つけ出せ 最高のフォームを!」
---	---

(5) 座談会 15:00～15:40 【音楽室】(見取りシートをもとに個の学びについて)
参観された授業に分かれて「個別最適な学びと協働的な学び、深い学びについて」

(6) ワークショップ 15:45～16:40 【音楽室】
講師 信州大学准教授 佐藤 和紀 先生

(7) 閉会行事 16:45～16:55 【音楽室】
①はじめのことば(教頭 中嶋 亮太)
②主催者挨拶 信濃教育会長 原 文章 様
③会場校校長挨拶 伊那東小学校長 田中 智之
④諸連絡(教頭)
⑤おわりのことば(教頭)

4 その他

- (1) 駐車場は来賓の皆様は来賓駐車場、一般参観者は JA 砂利駐車場をご利用ください
- (2) 参観後、感想用紙の提出をお願いします
- (3) 上履きをご持参ください。
- (4) 個人情報にかかわりますので写真撮影はご遠慮ください。

〈私たちと子どものあゆみ〉

研究テーマ

深い学びの視点に立った授業改善
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とともに～

I 研究テーマ設定の理由

本校の基本方針

本校では、「かしこく・やさしく・たくましく～互いのよさを認め、切磋琢磨し合いながらともに生きる道を切り拓いていく 東小の子～」という学校緒教育目標のもと、豊かな人間関係の中で安心して自分の力を発揮し、お互いの良さを尊重しながら成長し合う学校を目指し、以下の2点を職員の基本方針としています。

1. 子どもを発達の主体としてとらえる。

認識（知識） ⇄ 健全な身体 ⇄ 心

認識（知識）と健全な身体と心をつなぎ、子どもの発達をとらえる。子ども一人一人の個性を重んじ、この子にとって何が必要なのかを、常に問い合う職員集団であることが、子どもを発達の主体として捉え、学びをさらに深める原動力となる。

2. 子どもを育てる学校から子どもが育つ学校へ

学校という場所が、子ども一人一人の「自分」を創り出すということを目的とし、自律的な学びを中心とした「子どもが育つ」学校を目指す。そのために、次の3つの力が大切である。

○自分の手で自分の生活を維持できる力

○問題にぶつかった時、常に解決方法を考え、それを乗り越えていくことができる力

○自分の行動と相手の行動を結びつけて考えることができる力



自律的な学び

日々の授業では、自分の学びが「深まった」「成長できた」ということを、子ども一人一人が実感できるようにしたいと考え、実践を重ねています。

研究の背景

GIGAスクール構想に伴い情報端末が整備されて5年目を迎え、昨年度までに本校の先生方はツールの使い方に慣れ、ICTを活用した授業を実践できるようになりました。授業実践を繰り返す中で、先生方が便利に端末を使える姿は増えた一方で、新たな課題が見えてきました。それは、子どもの見取り（子どもの姿を見て、気持ちや考えを読み取る）に対して課題が見られた」ことです。ツールは使えるようになったものの、そのツールの活用が本当に子ども一人ひとりの「深い学び」に繋がっているのかという、指導の本質に関わる課題が職員間に生まれました。そこで研究の柱を次の3点としました。

深い学びの視点に立った授業改善

教師主導の一斉一律の授業からアプローチの仕方を変え、子どもが探究する授業へ変わっていくこと。

深い学びの視点に立った授業改善

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実とともに～

個別最適な学び

知識の習得だけでなく、「見方・考え方」を働かせ、学びを深める指導への転換を図ること。子ども一人ひとりの学びの姿をしっかりと捉え、子どもが学習を調整し、自ら学習方法や学習形態を選択できるように、教師が丁寧に支援すること。

協働的な学び

協働的な学びの一体的な充実はクラウド活用を基盤として、個の学びを深めるだけでなく、その学びを他者と共有し、さらに学びを広げられるように授業の中に組み込み、個別と協働が相乗効果を生む授業をデザインすること。

本研究は、便利に使えるようになったICTを基盤としつつ、一人ひとりの学びをしっかりと捉え、丁寧に支援することで、子どもに学習を委ねる授業を実践し、子ども一人ひとりが自律して深い学びを実践できる学校を目指していきたいと考え、この研究テーマを設定しました。

II これまでのわたしたちのあゆみ

5月の佐藤先生からのオンライン研修

佐藤先生のオンライン研修では、「個別最適な学びとは何か」を文部科学省の資料や他校の実践から丁寧に説明していただきました。本校の職員は、「自己調整学習には抵抗がある」「やり方を一歩間違えたら、自習時間みたいになってしまう」という不安。また、「1年生にはまだ早い」「学級経営が安定していないと難しい」といった現実的な課題。「学習についていくのが必死な子どもにばかり目がいってしまう」「C層（要支援層）に支援に入ればA層（上位層）がほったらかしになってしまう」という、個別最適な支援の難しさなど、様々な自分自身の課題を自覚することができました。研修後の振り返りでは、「なぜ自由進度学習が必要なのかがよくわかった」という必要感を抱く先生や、「不登校の子どもたちも生き生きと学びたいはず」「下位だけでなく、上位も個々の最適化が必要」という、すべての子どもに対する支援の必要性を認識している先生もいました。佐藤先生からの研修の中で、「魚を与えるのか釣り方を教えるのか」という問いかけがあり、学習内容だけでなく「学び方」を教える重要性を強く感じる先生も多くいました。具体的な実践への第一歩として、ワークシートの難易度や学び方を子どもが選択できるようにすることから始めることにしました。

職員の進捗状況

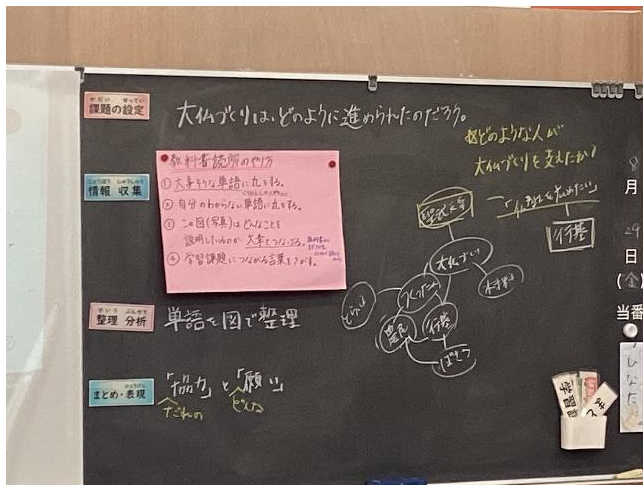
夏休み前に全職員で自分がどこまで進めているのか、研修を通して進捗状況を確認しました。日頃の校内研修では、クラウドを使用してきたので、操作などには慣れてきている先生が多くなりました。先生方同士の進捗状況を確認することで、一人一人の先生が夏休み中に取り組むことや自主研修へつながりました。

		●・・・できる・わかる・やっている【実践できているので、2学期は自分の実践を比べて改善してみよう。】 ○・・・少しはできる・まあ分かる・時々やっている【実践をイメージできているので、2学期は自分の実践を具体的にしてみよう。】 △・・・あまりできない・あまりわからない・あまりやっていない【まずは2学期からやってみてください。夏休み中に真似できそうなことを見つけて実践に繋げよう。】 ✕・・・お手上げ・意味もわからない【夏休み中に何が分からないのか整理して、わかる・実践できている方に関して実践できるようにしよう。】								
名前	これは職員全員でやる4つのうち特に1学期に取り組んできたことを選んでください。	①見通しをもった単元構想	②探究のプロセスで授業をしている	③B標準を子どもと共通理解し提示している	④見方・考え方を教えている	⑤コンピテンシー（資質・能力）を授業で育んでいる	⑥ICTを道具として取り入れて授業ができる	⑦板書に書く内容を精整している（精整とは、よく整う、きれいに整える）	⑧学習の手引きをクラスルームやスクールタクトなどに載せている	⑨振り返りを蓄積している
伊藤 文子	探究のプロセス...	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡澤 直也	探究のプロセス...	○	○	△	○	△	○	○	✕	○
坂田 翔馬	探究のプロセス...	△	○	△	△	△	○	△	✕	△
唐澤 紗季	探究のプロセス...	△	○	△	△	✕	○	○	✕	○
今枝 亜友美	探究のプロセス...	○	○	△	△	✕	○	○	△	△
細田 一成	学習達成度の設...	○	○	○	○	○	○	○	✕	○
小林 智哉	学習達成度の設...	○	○	○	○	○	○	△	○	○
金子 杏珠	探究のプロセス...	○	○	△	△	△	○	○	✕	○
北川 裕之	探究のプロセス...	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊藤 明耶	学習達成度の設...	△	△	○	△	✕	○	○	△	△
田中 恵	学習達成度の設...	○	△	○	△	✕	○	○	△	○

77 職員研修⑥ (7.30) 一人一公開授業公開予定 77 職員研修⑤ (7.25) 2 77 1学期の進み具合 (先生方これです) ICT研修希望 77 職員研修④ (6.30) 77 研究 職員研修③ (5.26) < >

8月のモヤモヤ

8月29日の全校研究では、6名の先生が公開をしました。クラウドを活用し、子どもが自律的に学べるよう、探究のプロセスに沿った授業を展開したり、子どもに学びを委ねる時間を増やしたりする授業を提案しました。単元構想、ルーブリックの作成、学ぶ手順の共有にも挑戦する姿がありました。参観した先生方からは、「先生方の存在が目立たない」「板書が見やすい」「子どもが楽しそう」などの声上がる一方で、「本当にこれでいいのか」という声も上がりました。



【見取りこそが「個別最適な学び」のスタート】

研究当初に職員でここは揃えようと思った探究のプロセスやルーブリック、学びの手引きなどICTを「子どもが自律的に学ぶためのツール」として先生方は取り組んできました。しかし、学びの形だけを整えている感覚も芽生え、職員間からは「何のためにツールを使うのかモヤモヤする」という声が上がっていました。午後の研究会では、佐藤先生から「子ども一人ひとりをどれだけ見取れているか」、そして「その見取りのために何ができるか」と問いかけられ、授業者の先生方も「見取りの甘さ」という自己認識から、ツールありきではなく、子ども一人ひとりの実態に寄り添うことこそが、本質なのだと改めて気づくことができました。また、佐藤先生のお話の中で「ICTを使わないとできない感覚が大切」という言葉がありました。これは、「ICTを使わなければ」という手段が先行している職員の意識があり、まずは子どもたちの学びを徹底的に見つめ、その結果として「見切れないから、ツールが必要になる」ということを私たちに教えてくれました。今回の研究会で、職員同士で「これでいいのか?」という問いを共有することができ、9月の公開授業では、一人一人を徹底的に見取り、授業をしていこうと目標を立てて進めていくことになりました。



授業を公開した先生方の振り返り

- ・スプレッドシートを利用して、子どもたちが自走できるような授業を考えたが、どこか自分が狙っている意図ではない利用の仕方、私だけが子どもたちを把握するツール（一方的なもの）になっており、どこかうまくいかないモヤモヤはありました。それは自分の子ども一人一人の見取りの甘さからくるものなのだと感じました。（阿部先生）
- ・ずっと壊せなかった壁を壊してみると、スプレッドシートの必要性とともにつくることの楽しさに気づき、スプレッドシートの内容がかわると子どもたちの姿もかわっていくのを感じることができ、子どもたちの学びの可能性をわたしがとめていたことに気がつくことができました。（上島先生）
- ・普段と異なるツールを用いたことで生まれた、新鮮で面白い体験として、教師の関わり方ではなく、子どもたちの主体的な学びの姿勢に焦点を当てて授業を構想することができました。（細田先生）
- ・子どもたちも私と同じように、混乱したり難しさを実感したりしていたと思います。それでも諦めず、学ぼうとする意欲を捨てない子どもたちにたくさん助けられました。（関先生）
- ・「子どもたちへの支援が本当に難しいなと感じさせられました。声がけ、困っている子への手立て、繋げ方など改めて教材研究の大切さを感じさせられました。」（小林先生）
- ・「一人ひとりの見取りをもっと厚くして、どんなことを聞かれてもすぐに答えられるように、また、どんな支援の形がその子にとっていいものなのか、日々の授業の積み重ねの中で見取っていくことをもっともっと大事にしていきたい。」（後藤先生）

9月 見取るためには

前回の公開授業から1か月、本校の先生方が取り組んできたのは「見取り」です。9月29日の全校研究では、6名の先生が公開をしました。公開する先生方は見取りシートを作成して、授業に望みました。今回の授業から、「見切れないからツールが必要」という必要感を感じることも大切ですが、一人ひとりを丁寧に見取るという視点で参観者も考えていました。机間指導の必要性や1人ひとりのペースで進める良さ、活動している時の子どもの生き生きとした表情など、公開された先生方の授業から参観

	自分で学びを進めている。どんな考えすればいいのかに注目しながら取り組んでいる。自分の考えたことを文章にしてから説明している。理由も付け加えている。	どんなきまりを使ったのか相手に説明して理解を深めてほしい。	10	0
	どんなきまりがあるのかに注目しながら取り組んでいる。やり方を順番にして説明することにも挑戦している。友だちとも説明しあいながら取り組んでいる。	前もって教科書読み取りをしている。きまりを使いながら取り組み、困っているところだけ支援をしたい。	7	3
	自分から分らないと言えない。どの順番で計算したらいいのかははじめはわかっていなかった。数字を書き込むように声をかけ、少しずつペースをつかんでいた。説明する力が弱いので、まずは問題に取り組むことを優先している。	どこに目をつければいいのか確認してから、進めるようにしていきたい。	3	7
	自分で問題から式を立てることができなかった。友だちとの話し合いで、解決？する様子があった。教科書から情報を集めることも難しいので、教師と共に進めている。	教科書のQRコードをもとにしながらやってほしいが、まずは先生たちと進めていく。	0	10
	自分から分らないと言えず、どんどん進めてしまう傾向あり。まずは順番に計算していくことをうながしている。本人も順番に計算していくやり方がやりやすいと見つけていた。	1人で進めている様子だが、どんな数をつくらうのかに注目させてから計算させたい。	3	7

者はたくさんの気づきを得ていました。その一方で、研究として進めてきたループリックが明確になっていないと、教師の「見取り」にブレが生じることも分かりました。

【深い学びとは】

佐藤先生からの研修では、個別最適な学びと協働的な学びが前提の授業のデザインだと今まで以上に子どもの見取りが重要になってくることを学びました。まず、「何ができて何ができないか」を一人ひとり把握し、「一人一人のゴールを想像する」こと。つまり教師が「ここまでのばしたいイメージ」をもつことが大切だということです。そこに、「見方・考え方」「知識を相互に関連付ける」「情報を精査して考えを形成する」ことで深い学びになっていくイメージをもつことができました。公開を終え、以下の3点を取り組むことにしました。

- ・ 1人1人を見取ること、見取り方の共通理解（系統的にみとる）
- ・ 意図をもった机間指導
- ・ 深い学びとつなげて考える（既有知識、単元で学んだことはつながっているのか、相互につなげて考えているのか）



授業をされた先生方の振り返り

- ・子どもとの個別の関わりができたことは、とても前向きな雰囲気につながったが、全員に回る難しさも痛感しました。（荒川先生）
- ・子どもたちの様子をしっかりと把握することの大切さを実感し、誰を優先するかなどを考えるために、見取りを整理することの重要性を学びました。（田中先生）
- ・子どもができるようにひらがなの五十音表やスクールタクトによる手順表など「型」というものを作りたい、学びの手引きの必要性を強く感じました。（中島先生）
- ・自分の立ち位置の工夫として、私語や視線、姿勢で気になる子もいるので、黒板の前で話す機会を減らしたり、その子の近くで話したりと自分の立ち位置を工夫していきたい。（岡澤先生）
- ・見取り表を作成したことで見えてない子が見えてきたものの、明日その子にどんな指導・支援が合っているかと、具体的な支援に繋げることが難しいなと思いました。（内田先生）

Ⅲ 本校が目指す授業

佐藤先生に共同研究者として、ご指導いただく機会を3回とり、「深い学びの視点に立った授業改善」について一緒に考えさせていただきました。全職員で共有し、本校が目指す授業について、下記のように取り組んでいます。

本校の取り組み

① 探究のプロセスに沿っての授業

個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業を通して、【課題設定】→【情報収集】→【整理分析】→【まとめ・表現】の流れを1時間や単元の学習過程とし、授業をデザインしてきました。

手順

生徒の提出物

【手順】

今日のゴールを確認・見直しをもつ

課題設定：ルーブリック・行動目標の記入

きそ問題 チャレンジ

情報収集：

教科書読解 同じところ ちがうところを見つける

QRコードの動画も使ってみよう

→ できたらすぐに多くの人と答えを確認・見直し

整理分析：自分の言葉で整理する（ノート）

まとめ・表現：振り返り

（終わったら、自分の課題に応じてジャストスマイル）

S：Aを含み、友だちに見方・考え方をふまえながら、教えることができる。

A：Bを含み、友だちに分かりやすい言葉やノートを使って、理解したことについて説明することができる。

B：自分の目標に向かって、どんな力を使って考えながら学習することができる。

② ルーブリックの活用

ルーブリックを作成することにより、子どもたちの指標として活用しています。子ども自身が何をすれば次のステップに進めるか、今自分はここまでできているなどを判断できるように分かりやすい言葉で表現し、自律的な学びを促しています。実践していくことで「単元やまとまりにおいて、資質・能力ベースでつきたい力を考える」「子どもの姿が中心となる授業をつくる」「教師の指示によらない授業デザインが可能になる」ということを教師自身が意識して取り組んでいます。

単元のルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	リズムカルで力強い踏み切りができ、「空中動作・着地」の動きにも意識して目標の高さに成功している。	課題解決のための練習で、なぜその練習が必要なのか、明確な理由を持って説明することができる。 仲間の動きやお手本の動画を自分の動きと比べて、具体的に違いを説明し、練習につなげることができる。	目標達成まで諦めず、練習方法や準備を自分から工夫している。友達の良いところを認め、自分の練習にも取り入れている。安全チェックも進んで行い、積極的に声をかけている。
B	リズムカルな助走と力強い踏み切りができている。	自分の動きや記録を見て、課題解決のための練習をいくつか試すことができる。 仲間の動きやお手本の動画から違いを見つけ、説明することができる。	運動に一生懸命取り組み、苦手なところを直そうと努力している。友達の良い点を見つけたり、協力して練習したりすることができる。安全に気をつけている。
C	跳び方のポイントが十分に理解されておらず、リズムカルな助走と力強い踏み切りができていない。 （記録の測り方やまとめ方でも整理してまとめることができない。）	自分の動きや記録の見方がわからず、課題解決に向けた活動につなげることができない 仲間の動きやお手本の動画を見ても共通点や違いを見つけることができない	練習への意欲にムラがある。どうやったら課題が解決するか、積極的な取り組みがあまり見られない。友達と協力することに課題がある時がある。安全への意識が低い。

③ 見取りシートを活用

子ども一人ひとりをどれだけ見取れているか、そして、その見取りのために何ができるかを考え、見取りシートを作成しました。教師の見取りを可視化・共有するためにクラウドを活用し、各教師が見取った児童の状況（何ができて、何ができないのか 系統性 見方考え方をどう働かせているのか）をクラウド上のシートで記録・共有しています。その見取りシートをもとに授業を展開しています。

IV 授業の見どころ

14 : 05 ~ 14 : 50 【4年堇組教室】

授業学級 4年堇組

授業者 小林 智哉 教諭

教科・単元

算数「ふえるとどうなる？～関係を見つけよう～」

子どもたちは教科書をただ読むのではなく、既習事項を書き込んだり、説明したりしながら、学びの拠り所として、教科書を活用していきます。見方・考え方を働かせながら、知識をつなぎ合わせて学びを深めていきます。

14 : 05 ~ 14 : 50 【体育館】

授業学級 5年梅組

授業者 後藤 樹 教諭

教科・単元

体育「データで見る私の高跳び成長ストーリー、見つけ出せ最高のフォームを！」

今回の授業では、単に技能の習得を目指すのではなく、自分の課題に合わせ、自ら効果的な練習を体育の見方・考え方を働かせながら算数（平均）の学びを活かしてデータやグラフを用いて選択していくことで、深い学びを目指していきます。

V みなさんと一緒に

※現在、これ以降についての研究を進めています。クラウド上の本資料につきましては、随時更新を行っていく予定です。以下にリンクを添付しておきますので、気軽にご確認の上、ぜひご意見やご質問などをコメントにてご記入ください。また、研究会の内容やグループ分けについても資料を載せますのでご確認ください。(10月30日より学習支援案など公開)

わたしたちの歩み	 https://drive.google.com/drive/folders/1PjX9-AIuaaVRKirgE5eSiFv9L6R4UxBK?usp=drive_link
学習支援案	 https://drive.google.com/drive/folders/1PjX9-AIuaaVRKirgE5eSiFv9L6R4UxBK?usp=drive_link

